



外国の研修生が

大崎養豚場を視察

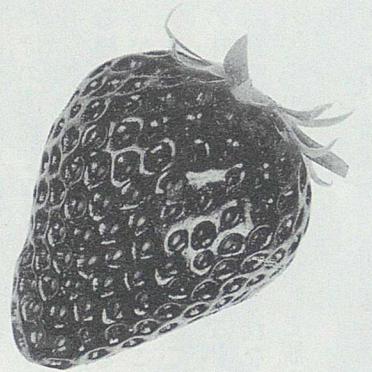
インドネシア・フィリピン
・タイなど十一か国からの研
修生ら十三人が二月二十六日
に玉造町を訪れ、八木蒔の大
崎養豚場(大崎靖司さん経営)
を視察しました。

研修生は、発展途上国の水
質や環境などに係わる研究者
や行政職員たちで、湖沼水質
保全研修の為に玉造町を訪れ
たもの。

水の科学館と茨城県内水面
水産試験場を視察後、大崎養
豚場を訪れ、豚のし尿処理と
粉末肥料製造の状況を熱心に
見てまわりました。

大崎さんは「二年前から豚
の粪の臭い消しを飲料に使
用しているから、豚舎もあま
り臭わないんです。それにハ
エの発生も少なく、県内から
も結構視察に来ている。この
前も筑波大学の安田八十亜助
教授が大学院生たちをつれて
来て、実際見てびっくりして
いたようです。肥料も好評で
青森方面へも出しています」
と語っています。

このたびの視察は、わが國
の環境分野での政府開発援助
(ODA)の一環として実施
され、霞ヶ浦近辺の養豚農家
として経営実績のある大崎養
豚場が選ばれました。



“玉造いちご”をエシャレットにつぐ第二の茨城県指定銘柄産地にしようと、「玉造いちご銘柄推進大会」が二月十日にJRなめがた玉造地区営農センター内にある、ふれあいセンターで開かれました。大会は、生産者の玉造地区いちご部会と、玉造町青果物銘柄推進協議会が主催。生産者や関係機関から約八十人が出席し、銘柄推進へ向けて積極的に取り組むことを確かめました。

筆目芳徳玉造町青果物銘柄推進協議会副会長は、「町でいちごを栽培するようになつたのは昭和三十五年からで、現在はエシャレットに次ぐ作物となつていて。町・農協・生産者が船串孝雄さんは、いちご部会の経過を報告し、今後の部会研修と銘柄指定への取り組みへの協力を呼びかけました。

大会では、本田宏一東京農産物流通指導センター所長と、貝塚洋茨城県経済連東京事務所長が講演。本田所長は、「いま市場で

いちご部会の船串孝雄さんは、いちごの栽培するようになつたのは昭和三十五年からで、現在はエシャレットに次ぐ作物となつていて。町・農協・生産者から



玉造いちごの主な経過



- ▽ 昭和35年 水田裏作として、いちごを導入
- ▽ 39年 ダナービンの大型ハウス栽培を導入
- ▽ 45年 春の香品種の促成栽培を導入
- ▽ 47年 宝交早生品種の導入と、ウイルス苗の試作
- ▽ 50年 宝交早生の全盛期で電照栽培を導入
- ▽ 56年 麗紅品種の導入と、京浜市場への出荷
- ▽ 60年 生産組織の統一（玉造一本化）
- ▽ 63年 隔離ベット育苗による女峰栽培（平成）
- ▽ 2年 鮮度保持の為各戸予冷庫を導入。銘柄推進産地に指定
- ▽ 3年 市場削減と全量を経済連へ販売。玉造町銘柄推進協議会設立。
- ▽ 4年 出荷規格の変更（デラックス規格を導入）

第2の銘柄へ向けてゴー！

エシャレットに続け

玉造いちご銘柄推進大会



玉造いちご
人気のヒミツは
ここにあります

ヘルシーです

小さくて可愛い妖精のようないちごにはビタミンCや鉄分がたっぷり含まれています。陽の光をふんだんに浴びて育った玉造いちごは、まるで食べる太陽のように、あなたにヘルシーな魅力をプレゼントしてくれるでしょう。

セイフティーです

玉造いちごは、有機質をたっぷり使った土作りに、たいへんな努力を払っています。肥沃な土ならば、美味しいのはもちろん、健康で病気に強いいちごが育つから…。また、美味しいいちごを実らせるために「蜜蜂交配」をしています。

デリシャスです

玉造いちごは、大粒で果汁をたっぷりと含み、甘味と酸味の調和のとれた食味のすぐれいちごです。首都圏出荷への輸送の時間がかかるので、十分に熟させ、フレッシュなまま消費地にお届けできます。



玉造町中央公民館での開会式(2/10)でテープカットをする、渡辺正則町教育長(右)・坂本常蔵町長(中)・茂木直喜郡美術家協会理事長(左)

秀作がずらり 展示 ～行方郡美術展～

行方郡内の美術愛好家の作品を展示了『第22回行方郡美術展覧会』が、2月10日から15日までの6日間、玉造町中央公民館と図書館を会場に開かれました。

展覧会には、絵画・書道・写真・工芸・彫塑に300点近くの作品が寄せられ、入選作品が展示され訪れた方々の目をうばいました。

玉造町から入選された作品は次のとおりです。
(敬称略)

◎絵画

- ▶ 委嘱賞 「ふじ咲く頃」 (鈴木民弥)
- ▶ 入賞 「静物」「おともだち」 (石津三重子)
「靈山遊歩」「浅間山を望む」 (小野口清一郎)
「高砂」 (菅谷吉蔵)

◎書道

- ▶ 委嘱賞 「唐詩」 (茂木道彦)
- ▶ 優秀三席 「唐詩」 (高橋侯坦)
- ▶ 佳作 「唐詩」 (平野敏夫)
- ▶ 唐詩」 (川島勤)
- ▶ 無我」 (松本実)
- ▶ 唐詩」 (阿部タカ)
- ▶ 唐詩」 (曾根康充)

◎写真

- ▶ 優秀二席 「躍動する吊し雲」 (香取寛憲)

- ▶ 佳作 「寂」 (小野口孝一)
「さぼてんの花」 (小野口一男)
「港の影」 (萩原久司)
「船影」 (関野淳)
「待ってよ」 (中嶋和代)
「ついばむ」 (関野友)
「紫陽花」「翔(サギソウ)」 (成島昂)
「隅景」 (小野孝一)
「フヨウ」「浜の女」 (荒井久慶)
「白川郷合掌造り」「リライアップ」 (阿部多聞)
「白鳥のはばたき」 (原広近)
「赤い花」 (関野淳)
「影」「漁港風景」 (西谷嘉久)
「輝く雲」 (香取寛憲)
- ▶ 入選

- ▶ 彫塑
▶ 優秀一席 「空間の器」 (山口奉宏)



「これすばらしいネ」と書に
見入る人も…



「銘柄指定に向けて努力しよう」と
さつする貝塚副会長

県のように単に生産を増やすだけの運動でなく、人をつくり・物をつくり・地域をつくる総合的な運動になっているのがすばらしい。玉造いちごの課題としては①生食としての味の追求②ロスを出さない品質管理③天候に左右されない安定出荷——が大切」と説明。



「いちごはトレンド入り人気商材NO.1だ」と本田宏一所長



「今や小売の主役はスピーディーだ」と販売戦略を述べる貝塚所長

市場流通の現状を「今や小売の主役はスーパーで情報販売が主流となりつつある。一産地の条件としては①高い栽培技術に裏打ちされた商品力があるかどうか。設備などの先行投資は産地を伸ばすための必要条件だ②状況に応じた適切な生産や販売戦略がくめる産地体制がしっかりとしているかどうか③数量(ロット)にまとまりがあるかどうか。特に拠点市場を持つて販売戦略を開拓することが産地発展のポイントだ」と主張。このあと生産者の須貝真さんが「大会宣言」を朗読し、閉会しました。

デリシャスないちごはいかが!

ピール
婦人部員が東京でPR

『味があいしくてデリシャスな玉造いちごを売りこもう』と、いちご部会の婦人部員が2月27日に、東京西新井のスーパー「マルエツ」でピールを行いました。県の銘柄指定推進の一環として活動したもので、買物に来た主婦たちに好評のようでした。



- 材料(8人分)
プレーンヨーグルト…450g 砂糖…大さじ4 いちご…100g レモン…1/3個 生クリーム…大きさじ3 板ゼラチン…25g いちごソース(いちご…200g レモン…1/3個 コアントロー酒…大さじ1 砂糖…大さじ2)
- 作り方
①いちごを裏ごしして、砂糖、レモン汁を入れる。②ボールにヨーグルトと生クリームを入れてよく混ぜ、①を加えさっくり混ぜる。③板ゼラチンは水でしらさせて湯せんにし②と合わせる。④いちごソースを作る。いちごは裏ごし、レモン汁、コアントロー酒、砂糖とよく混ぜる。⑤プリン型を水でぬらし③を流し固める。⑥器にあけていちごソースを添える。

デザートにいちごを…

文 芸

短
歌

客ありて我れに帰りぬ小説の
世界に感傷の涙流しいき
老櫻の地割れ墓石に傾くを宙
吊り倒し香をたむける

電気治療器膝に当てつつ見る
テレビ国会空転を今日も映せ

並木 富茂恵
田の畦を行けば群れ咲く大ふ
ぐり避けて歩みぬ淡きむらさ
き 奥田尚子

重体と友の病状告ぐ友も浅き
眠りの日々なげき行く
犬ふぐり芹佛の座湖べりにふ
さき花閉じ夕べとなりぬ

鈴木 節子
大和田 目久子

環境の汚染酷しく野や川の小
さな命滅び逝く見ゆ

笹 鈴木 節子
大和田 目久子

牛蛙啼くこえこもる夕ぐれの
玉造大橋灯の点りたり

小沼 正蔵
大和田 まさる

語るとき言葉やさしき友の顔
偲ぶ棺に香のまつわる

郡司 春枝
筑波お山の梅林散歩

墓も花見か岩のかげよしお

寒さこらえて雪傘さして
甘いさゝやき匂う梅

春の足音聞えたような
芽吹き明るい路のとう

篠原 藤娘
筑波お山の梅林散歩

花の七日は梅 桃 櫻

花の七日は梅 桃 櫻

青岸 正人
篠原 藤娘

順を待てぬか桜も桃も
梅の盛りに花だより

古い写真の桃割れ姿
孫が訝る祖母の顔

村雀賑わう声で年も明け
べた風と言ふ漁言葉初日の出

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

早咲きの梅一輪の香たしか
さき花閉じ夕べとなりぬ

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

牛蛙啼くこえこもる夕ぐれの
玉造大橋灯の点りたり

小沼 正蔵
大和田 まさる

語るとき言葉やさしき友の顔
偲ぶ棺に香のまつわる

郡司 春枝
筑波お山の梅林散歩

墓も花見か岩のかげよしお

寒さこらえて雪傘さして
甘いさゝやき匂う梅

春の足音聞えたような
芽吹き明るい路のとう

篠原 藤娘
筑波お山の梅林散歩

花の七日は梅 桃 櫻

花の七日は梅 桃 櫻

青岸 正人
篠原 藤娘

順を待てぬか桜も桃も
梅の盛りに花だより

古い写真の桃割れ姿
孫が訝る祖母の顔

村雀賑わう声で年も明け
べた風と言ふ漁言葉初日の出

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

早咲きの梅一輪の香たしか
さき花閉じ夕べとなりぬ

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

牛蛙啼くこえこもる夕ぐれの
玉造大橋灯の点りたり

小沼 正蔵
大和田 まさる

語るとき言葉やさしき友の顔
偲ぶ棺に香のまつわる

郡司 春枝
筑波お山の梅林散歩

墓も花見か岩のかげよしお

寒さこらえて雪傘さして
甘いさゝやき匂う梅

春の足音聞えたような
芽吹き明るい路のとう

篠原 藤娘
筑波お山の梅林散歩

花の七日は梅 桃 櫻

花の七日は梅 桃 櫻

青岸 正人
篠原 藤娘

順を待てぬか桜も桃も
梅の盛りに花だより

古い写真の桃割れ姿
孫が訝る祖母の顔

村雀賑わう声で年も明け
べた風と言ふ漁言葉初日の出

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

早咲きの梅一輪の香たしか
さき花閉じ夕べとなりぬ

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

牛蛙啼くこえこもる夕ぐれの
玉造大橋灯の点りたり

小沼 正蔵
大和田 まさる

語るとき言葉やさしき友の顔
偲ぶ棺に香のまつわる

郡司 春枝
筑波お山の梅林散歩

墓も花見か岩のかげよしお

寒さこらえて雪傘さして
甘いさゝやき匂う梅

春の足音聞えたような
芽吹き明るい路のとう

篠原 藤娘
筑波お山の梅林散歩

花の七日は梅 桃 櫻

花の七日は梅 桃 櫻

青岸 正人
篠原 藤娘

順を待てぬか桜も桃も
梅の盛りに花だより

古い写真の桃割れ姿
孫が訝る祖母の顔

村雀賑わう声で年も明け
べた風と言ふ漁言葉初日の出

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

早咲きの梅一輪の香たしか
さき花閉じ夕べとなりぬ

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

牛蛙啼くこえこもる夕ぐれの
玉造大橋灯の点りたり

小沼 正蔵
大和田 まさる

語るとき言葉やさしき友の顔
偲ぶ棺に香のまつわる

郡司 春枝
筑波お山の梅林散歩

墓も花見か岩のかげよしお

寒さこらえて雪傘さして
甘いさゝやき匂う梅

春の足音聞えたような
芽吹き明るい路のとう

篠原 藤娘
筑波お山の梅林散歩

花の七日は梅 桃 櫻

花の七日は梅 桃 櫻

青岸 正人
篠原 藤娘

順を待てぬか桜も桃も
梅の盛りに花だより

古い写真の桃割れ姿
孫が訐る祖母の顔

村雀賑わう声で年も明け
べた風と言ふ漁言葉初日の出

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

早咲きの梅一輪の香たしか
さき花閉じ夕べとなりぬ

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

牛蛙啼くこえこもる夕ぐれの
玉造大橋灯の点りたり

小沼 正蔵
大和田 まさる

語るとき言葉やさしき友の顔
偲ぶ棺に香のまつわる

郡司 春枝
筑波お山の梅林散歩

墓も花見か岩のかげよしお

寒さこらえて雪傘さして
甘いさゝやき匂う梅

春の足音聞えたような
芽吹き明るい路のとう

篠原 藤娘
筑波お山の梅林散歩

花の七日は梅 桃 櫻

花の七日は梅 桃 櫻

青岸 正人
篠原 藤娘

順を待てぬか桜も桃も
梅の盛りに花だより

古い写真の桃割れ姿
孫が訐る祖母の顔

村雀賑わう声で年も明け
べた風と言ふ漁言葉初日の出

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

早咲きの梅一輪の香たしか
さき花閉じ夕べとなりぬ

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

牛蛙啼くこえこもる夕ぐれの
玉造大橋灯の点りたり

小沼 正蔵
大和田 まさる

語るとき言葉やさしき友の顔
偲ぶ棺に香のまつわる

郡司 春枝
筑波お山の梅林散歩

墓も花見か岩のかげよしお

寒さこらえて雪傘さして
甘いさゝやき匂う梅

春の足音聞えたような
芽吹き明るい路のとう

篠原 藤娘
筑波お山の梅林散歩

花の七日は梅 桃 櫻

花の七日は梅 桃 櫻

青岸 正人
篠原 藤娘

順を待てぬか桜も桃も
梅の盛りに花だより

古い写真の桃割れ姿
孫が訐る祖母の顔

村雀賑わう声で年も明け
べた風と言ふ漁言葉初日の出

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

早咲きの梅一輪の香たしか
さき花閉じ夕べとなりぬ

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

牛蛙啼くこえこもる夕ぐれの
玉造大橋灯の点りたり

小沼 正蔵
大和田 まさる

語るとき言葉やさしき友の顔
偲ぶ棺に香のまつわる

郡司 春枝
筑波お山の梅林散歩

墓も花見か岩のかげよしお

寒さこらえて雪傘さして
甘いさゝやき匂う梅

春の足音聞えたような
芽吹き明るい路のとう

篠原 藤娘
筑波お山の梅林散歩

花の七日は梅 桃 櫻

花の七日は梅 桃 櫻

青岸 正人
篠原 藤娘

順を待てぬか桜も桃も
梅の盛りに花だより

古い写真の桃割れ姿
孫が訐る祖母の顔

村雀賑わう声で年も明け
べた風と言ふ漁言葉初日の出

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

早咲きの梅一輪の香たしか
さき花閉じ夕べとなりぬ

飯島伸子 長谷川 鶏頭子

牛蛙啼くこえこもる夕ぐれの
玉造大橋灯の点りたり

小沼 正蔵
大和田 まさる

語るとき言葉やさしき友の顔
偲ぶ棺に香のまつわる

郡司 春枝
筑波お山の梅林散歩

